

[巻頭特集] 社会医療法人 畿内会 岡波看護専門学校
少人数制で即戦力の人材を育成

看護教育機関として約110年の伝統を持つ、岡波看護専門学校。卒業生の多くが医療や看護、福祉などの現場で活躍しています。この10月には今春入学した1年生の戴帽式が執り行われ、ナースキャップを授与された17人は、看護の道を歩む決意を新たにしていました。



学生が互いに患者役となって実技を身につけていきます。写真は、実際の病室を再現した実習室で血圧測定や介護補助の練習をする様子です



基礎看護学(生活を支援する技術・食事介助)の講義風景で、学生たちの真剣な眼差しが印象的です

明治39年に開設された歴史ある看護専門学校

看護師になるためには、看護大学や看護専門学校を卒業して、看護師国家試験の受験資格を得ることが前提です。近年は看護大学へ進学する学生が増えてきましたが、その一方で、実技を重視する看護専門学校で学び、少しでも早く医療の現場で働きたいと望む学生も少なくありません。

三重県下には11の看護専門学校があります。岡波看護専門学校は明治39年の創立で、これまでの卒業生が1800人を超える伝統校です。母体病院である岡波総合病院(当時・猪木病院)の創設者・猪木久馬三が、自身の病院の看護師を自ら育てようと、同校を開校しました。翌明治40年、当初の「名賀郡看護婦養成所」から「猪木病院産婆看護婦養成所」と名称を改めます。

昭和56年には専修学校の認可を受けて、「三重県岡波看護専門学校」に改称。平成3年、看護学科(3年課程)が設けられ、現在に至ります。岡波総合病院の社会医療法人認定に伴い、平成24年に「社会医療法人畿内会岡波看護専門学校」と改称しました。

「人間としての愛」の精神を理念に掲げ、カリキュラムにはナイチンゲール理論を基にした科学的看護論を取り入れています。自立心を育み、人間的に深みのある看護師の育成を目指して、少人数制による、学生個々へのきめ細やかな教育に努めてきました。国家試験の合格率、就職率ともに100%を誇っています。

本校で培った「看護の楽しさ」を胸に、知識と技術と心を兼ね備えた、専門職業人としての看護師になってほしいです。

さまざまな実習を通して必要な知識と技能を習得

岡波看護専門学校では、3年間で1035時間を実習に充てており、学生たちは即戦力として働ける看護技術を身につけて卒業していきます。病院実習を支えているのが、岡波総合病院との連携です。同校は病院敷地内に併設されており、基礎看護学実習をはじめ、領域別実習や統合実習などの実習先が身近にあるという恵まれた環境にあります。



前列向かって左から教務主任の山根ひとみさん、山内木綿子学校長、後列向かって左から事務員の居附慶子さん、学校事務長の湯村美雪さん、教務副主任の三ツ森みゆきさん

「楽しい看護の始まり」を合い言葉に学ぶ3年間

1学年1クラス定員20人の少人数制。現在は高校新卒者と社会人経験者がほぼ半数ずつの構成で、子育て中の学生もいます。ここ数年、男子学生も増え、多い年には2割ほどを占めます。学生寮を完備しており、約3分の1が寮生です。

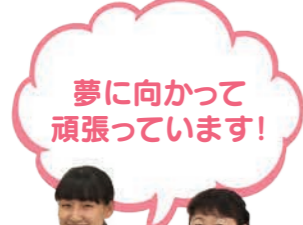
児玉源太郎さんは、「患者さんやその家族から、笑顔が見られるような看護ができるようになりたいです」と目標を話します。理想の看護師像について、稲垣彩さんは「看護してもらって良かった、と患者さんから思われるような看護師です」と微笑

み、岡田麻奈美さんは「患者さんの不安などをいち早く気づける看護師を目指したい」と答えてくれました。患者が安心して療養生活を送るためには、看護師による細やかな心配りが大切。藤森巧さんは、「療養生活を支えられる看護師になりたい」と答えます。藤岡優歌さんと村田久美さんは、「温かい看護で、患者さんの信頼を得たい」「患者さんが今後目指される先をいっしょに見据えたい」とそれぞれの目標を話してくれました。

「少人数制のため学生同士はもろんのこと、先生と学生の距離も近く、アットホームな雰囲気本校の特徴です。先生のなかには卒業生も大勢いますので、学生時代の経験を生かした親身な指導が、学生たちの確かな成長に繋がっています」と山根さん。

講義や実習などで忙しい毎日ですが、学生たちは明るく、生き生きとしています。同じ目標を持った仲間として、学校生活で友情を育み、キャンプや学校祭などの行事では交流を深め、ときに助け合い、ときに切磋琢磨しながら、充実した3年間を過ごします。

「看護師は素晴らしい仕事。本校で培った『看護の楽しさ』を胸に、知識と技術と心を兼ね備えた、専門職業人としての看護師になってほしいです」と山根さんは学生にエールを送ります。



いよいよ本格的な実習に臨む2年生6人。前列向かって左から児玉源太郎さん、稲垣彩さん、岡田麻奈美さん、後列向かって左から村田久美さん、藤森巧さん、藤岡優歌さん、教務主任の山根ひとみさん



(左)プログラミングにより不定期に泣き出したりする赤ちゃんモデル。学生たちは一晩持ち帰り、実際の育児を体験します(右)最新設備がそろった実習室には、さまざまな病気の状態をコンピュータで設定できる人形があります。学生たちはこの人形を使って、各症例の観察や診察などのトレーニングを積み重ねます

information
 社会医療法人畿内会
岡波看護専門学校
 伊賀市上野桑町1734
 TEL 0595-21-3138
<http://www.okanami-kango.ac.jp>